

ふらかわ

No.25

1986年(昭和61年)12月

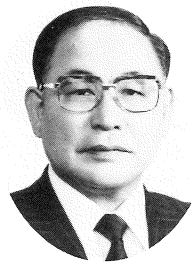


財団法人

鹿児島市動物公園協会

ごあいさつ

鹿児島市長 赤崎 義則



平川動物公園が前身の鴨池動物園の歴史をひきついで、昭和47年開園してから14年が過ぎました。この間、時代の移り変わりにつれて外国との動物交流も次第に盛んになってまいりました。

昭和59年にオス2頭、昭和60年にメス4頭のコアラがオーストラリアのクィーンズランド州政府の厚意によって贈られました。

コアラの来鹿は大へんな人気を呼び、入園客は格段の伸びをみせています。さらに今年は中国の長沙市からウンピョウを迎えるなど、平川動物公園も国際交流の一環を担ってますます発展の一途をたどっておりますことは、まことに喜びに堪えません。

最近のコアラの赤ちゃん誕生のニュースは、最高の明るい話題の提供となりマスコミを賑わしました。はじめてのむずかしい飼育をやりとげた動物公園スタッフの昼夜の努力と技術によって成し遂げられたものだと高く評価しておりますが、こんごも健やかに育ててくれることを願っております。可愛い親子のコアラの姿は、日豪親善と本市ならびに本県の観光にとっても大きな役割を果してくれるものと期待しています。

これからの動物公園は多くの機能をもつべきであると考えています。野生動物の保護や繁殖・研究などは勿論のことですが、レクリエーションの場として一日を明るく楽しく過ごし、また楽しみながら勉強のできる場所として充実させたいと思っています。さしあたって今年は、園内を流れる清らかな五位野川沿いに各種のハナショウブ16,000本を植え込んだショウブ園を完成させました。また、遊園地には、スピードとスリルを楽しめる大型遊具を来年3月末に設置します。

動物公園に隣接する錦江湾公園では、青少年健全育成のためキャンプ場を建設するなど着々と公園整備を進めておりますので、平川動物公園ともどもご利用いただければ幸甚に存じます。

今日まで平川動物公園を支え育てていただきました皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

表紙

コブハクチョウ(Mute Swan)

ガンカモ目 ガンカモ科

本来ヨーロッパとアジアに分布していたが、世界各地に移入され公園の池などで飼育されている。上くちばしの基部からひたいにかけての部分にこぶ状の突起があるのが特徴。植物質を主食とするが小魚、水生昆虫、貝なども食べる。体重が重いにもかかわらず強力な飛行力をもっているが、当園のは翼を一部カットしてあるので飛ぶことはできない。灰色っぽい1羽は6月7日ふ化したものです。

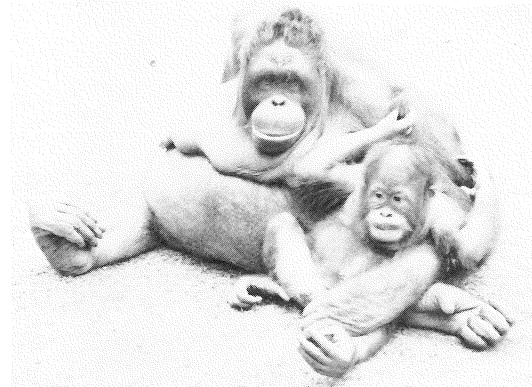
行事

- 1月2日 新春もちつき大会(対象 小・中学生)
- 1月2日~4日 新春お楽しみ福引大会(対象小・中学生)
- 新春お年玉大会(対象 未就学児)
- 休園日 12月29日から1月1日まで

飼育動物数 (昭61.11現在)

ほ乳類	78種	406点
鳥類	73種	483点
は虫類	8種	15点
計	159種	904点

動物公園の歩み (昭和59年~昭和61年)



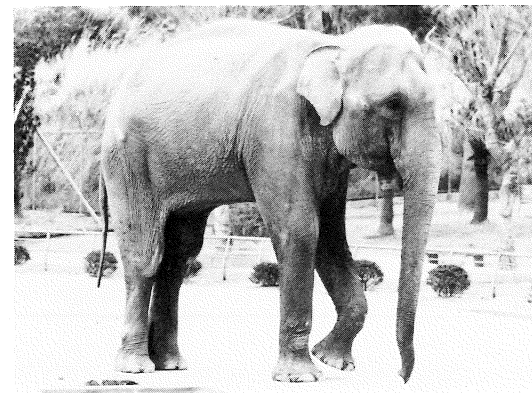
オランウータン命名 (昭和59年9月24日)

昭和59年5月8日生まれたオランウータン(オス)に「洋平」の名前が付けました。



コアラ飼育指導

クィーンズランド州のブラウン獣医師が10日間滞在している指導しました。



ドム君死去 (昭和60年3月20日)

昭和26年7月、タイ国より鴨池動物園に来園して以来人気者であったドム君が死亡しました。



コアラ(オス)2頭来園 (昭和59年10月25日)

クィーンズランド州ピーターセン首相一行とともに来園し、コアラ舎前で歓迎式が行なわれました。



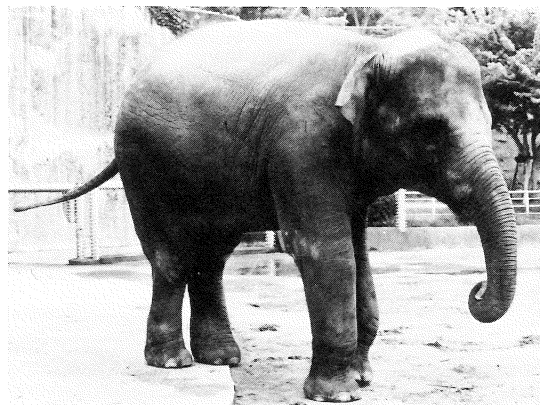
コアラ一般公開 (昭和59年11月20日)

午前9時から午後4時まで公開されますが、祝日を除く毎週金曜日はコアラ舎だけ休みです。



コアラ(メス)4頭来園 (昭和60年5月14日)

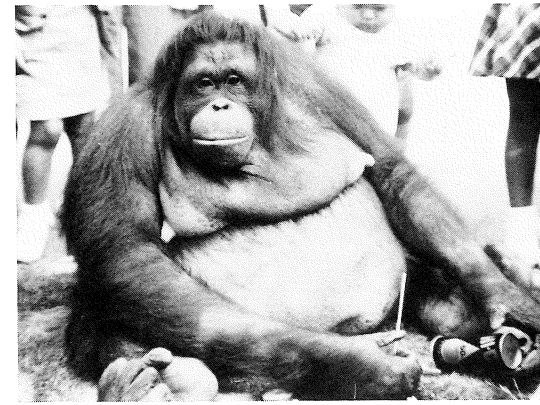
赤崎市長夫妻ら一行5名は、オーストラリアクィーンズランド州でメスコアラ4匹受け取る。



インドゾウ(パク)死去 (昭和60年5月18日)
 昭和55年9月12日宮崎フェニックス自然動物園から仲間入りしていたパクちゃんが腸炎で死亡しました。



台風13号による被害 (昭和60年8月31日)
 久しぶりの大きな台風で、園内の樹木や柵などに大きな被害が出ました。



オランウータン「モン」ちゃん死去
 (昭和61年1月22日)
 昭和48年8月来園以来、2頭の子どもを産みました。



コアラ一般公開以来有料入園者100万人突破 (昭和61年3月6日)
 100万人目の入園者 鹿児島市下福元町 谷延 龍子 様
 前後賞 村田きよみ様 肥後 文子様



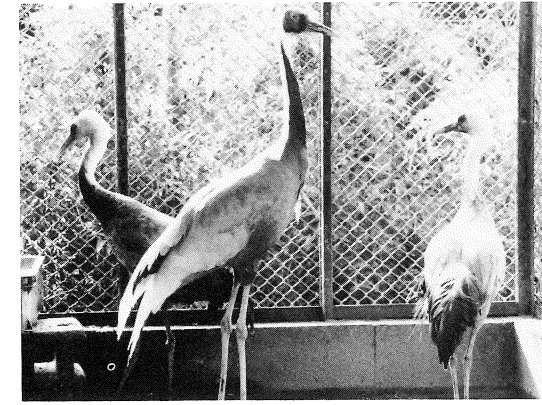
コアラ(ユカリ)死去 (昭和60年10月3日)
 来園半年でメスのユカリが急死し、コアラ飼育のきびしさを感じさせました。



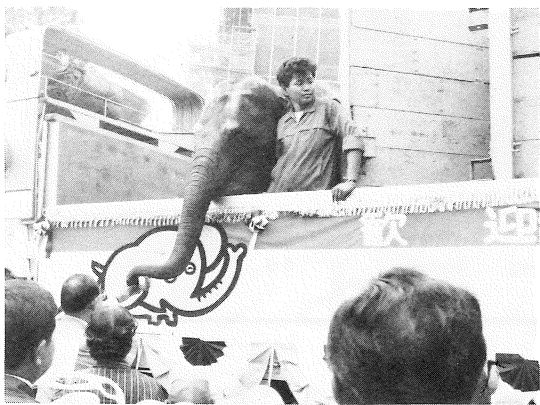
ユカリのお別れ式 (昭和60年10月6日)
 ローンパインコアラ園のピーター・ダグラス氏や幼稚園児たちが出席して行なわれました。



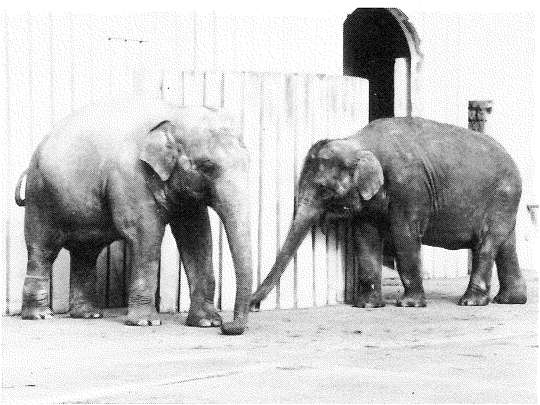
コアラの飼育指導 (昭和61年4月11日)
 キーンズランド州のコアラ専門獣医師ウッド氏が来園し、コアラの健康状態をチェックしました。



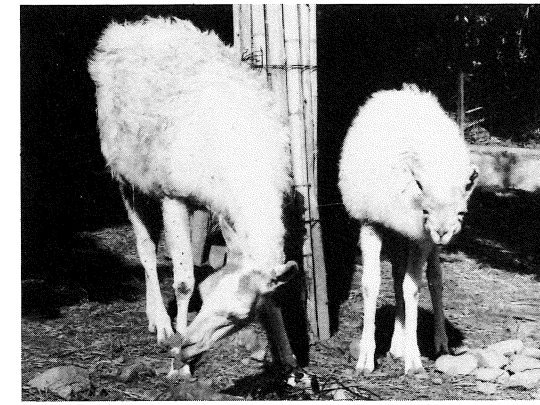
ナベヅル(2羽) マナヅル(1羽) (昭和61年6月25日)
 弱ってシベリアへ帰れなかったツルを、出水市から保護預りました。



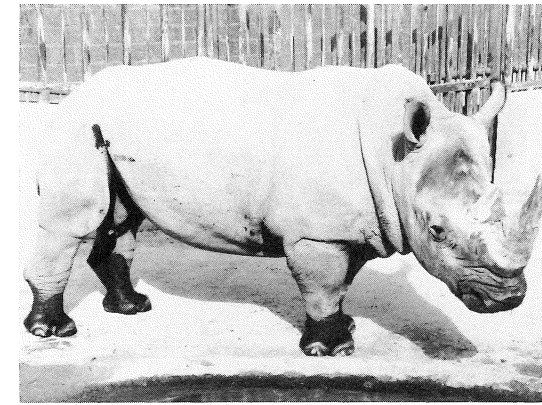
インドゾウ2頭来園 (昭和60年10月31日)
 トラックに乗ったまま市役所前で大勢の市民が集まり歓迎式が行なわれました。



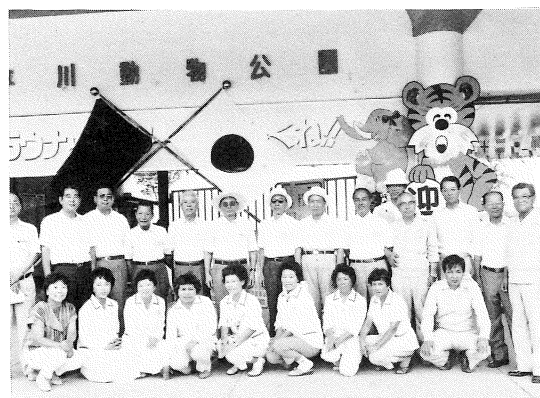
➡ **インドゾウ、ラウナ(オス)とアンリー(メス)**
 すっかり平川に落ち着いて、二世たん生が期待されています。



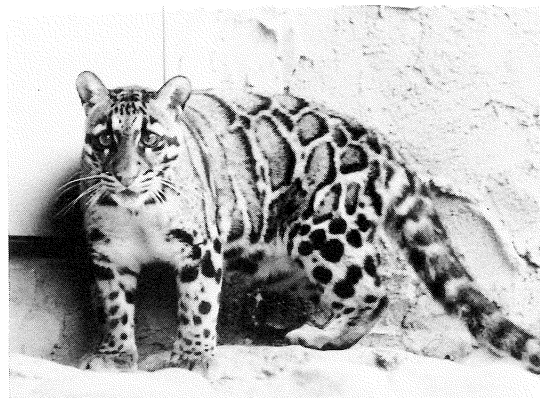
ラマの赤ちゃん(メス)誕生 (昭和61年6月29日)
 純白のふわふわした毛につつまれた元気なお嬢さんです。



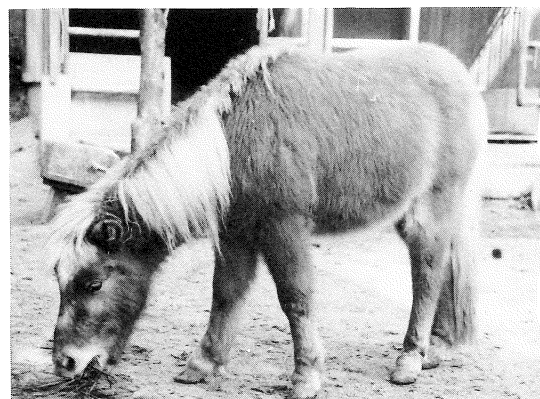
シロサイ来園 (昭和61年7月11日)
 宮崎サファリパーク生れのシロサイ、オスのチョウスケ(8才)とメスのシノ(8才)が仲間入りしました。



中国長沙市経済技術友好代表団来園 (昭和61年8月13日)
王克英市長を団長とする一行7名が来園し、動物交換などについても話し合われました。



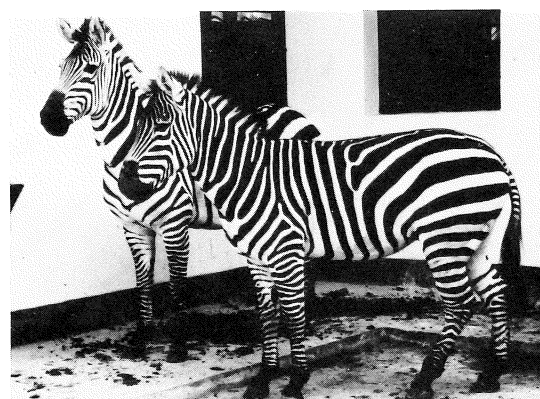
ウンピョウ到着 (昭和61年9月13日)
中国長沙市からウンピョウがきました。鹿児島市との動物交換により実現したものです。



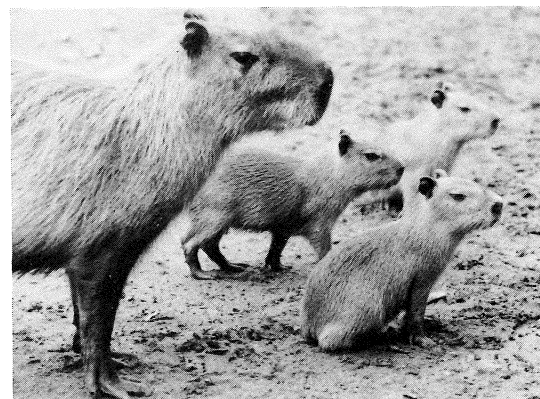
ミゼットポニー寄贈 (昭和61年9月17日)
鹿児島市長田町の篠原直樹氏からミゼットポニーが寄贈されました。



動物慰霊祭 (昭和61年9月23日)
秋の動物公園まつりの行事で、一日園長に任命された東谷山中2年の福森一徳君が弔辞を読みました。



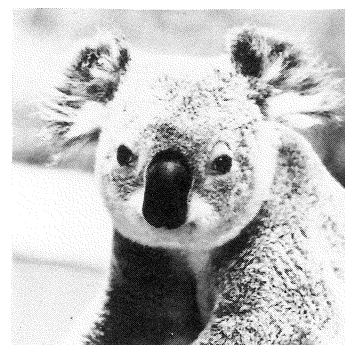
シマウマ中国長沙市へ (昭和61年10月26日)
中国長沙市動物園へ当園生まれのシマウマとマントヒヒのひとつが贈られました。



カピバラに3つ子誕生 (昭和61年11月26日)
生まれたその日から水中にもぐることもできる元気なものです。

ひらかわのコアラたち

ネムネム(オス)
1981. 2. 22 生



はやと(オス)
1983. 3. 12 生



スクスク(メス)
1983. 12. 16 生



サクラ(メス)
1982. 10. 24 生



ミナミ(メス)
1983. 11. 10 生



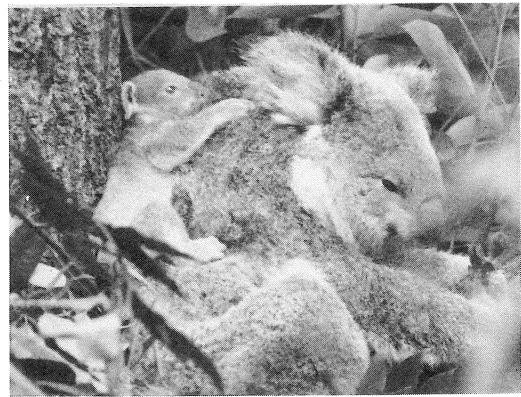
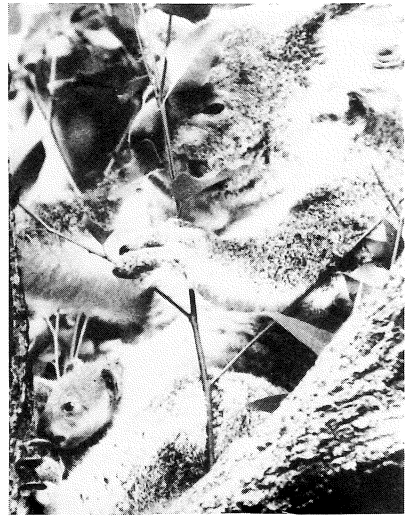
動物人気投票

昭和61年8月1日～8月31日、動物公園内で小・中学生を対象に、動物の人気投票を行いました。投票総数は6,348票で、人気ベストは、次のように決まりました。



1位	コアラ	1,019票
2位	キリン	925
3位	ゾウ	675
4位	シロクマ	214
5位	ペンギン	196
6位	ライオン	189
7位	トラ	172
8位	サル	169
9位	ウサギ	157
10位	リスザル	138

こんにちは！コアラの赤ちゃんです。



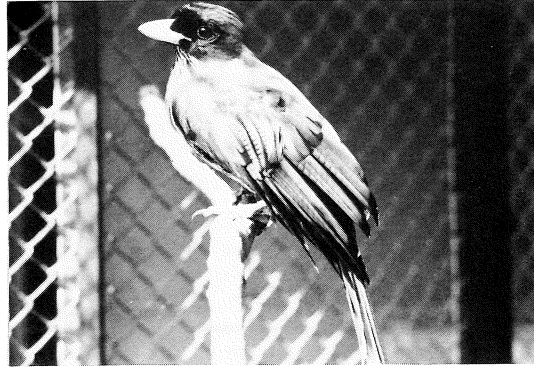
はじめてお母さん(ミナミ)におんぶしました。
(昭和61年11月27日)
すこしこわかったです。

繁殖受賞

アマミノクロウサギ



ルリカケス



アマミノクロウサギ(昭和60年4月繁殖)とルリカケス(昭和60年4月26日繁殖)に繁殖賞が贈られました。

繁殖賞とは、日本動物園水族館協会加盟の動物園、水族館において、戦後我が国で初めて繁殖(自然、人工)し、6ヶ月間以上育成した動物に与えられる賞です。これまで当園では、セイケイ、ヘラサギ、カピバラが受賞しています。

ハイ！担当は私です



▲ オオカンガルー

昭和59年1月、動物公園に着任し最初はキツネ、タヌキ、オオカミなどのいる小獣類舎を担当していましたが、60年11月からオオカンガルーをはじめ、アカカンガルー、エミウ、コクチョウ、ヒクイドリなどのオーストラリア園を担当しています。このオオカンガルーは、昭和48年5月、姉妹都市である西オーストラリアのパース市から寄贈されたものが代々繁殖したものです。

飼育係 小牧政広 技師

ミニ百科

コアラの赤ちゃん

妊娠約35日で生れ、母親の袋の中へ自力で入り、袋の中にある乳首にぴったり吸いつく。生れる時のコアラは、体長2cmぐらいで、体重2~3gといわれる。約6ヶ月間、母親の袋の中ですごして袋から出るようになる。初めて袋から出るころは体長20cmほどに成長し、完全にひとり立ちできるのは満1才半ぐらいである。



動物公園の顔



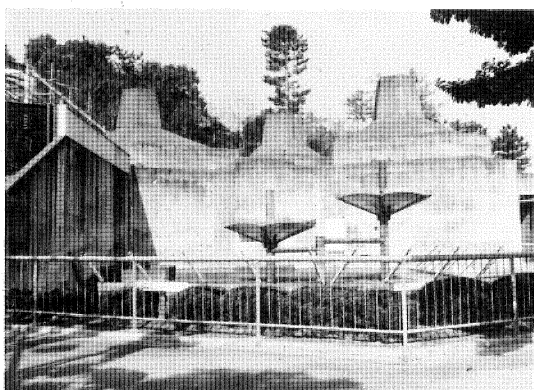
◀ ホッキョクキツネ (Arctic Fox)

食肉目 イヌ科

学名 : *Alopex lagopus*

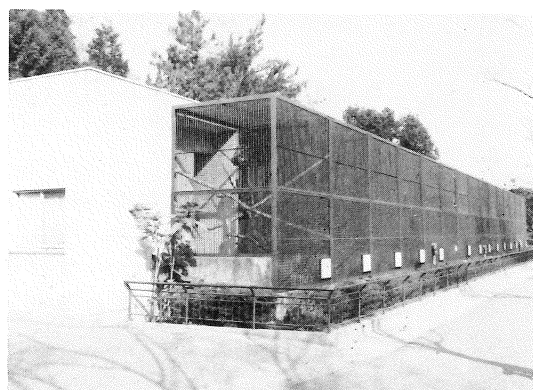
北極圏のツンドラ地帯の森林に生息する。頭部は丸く鼻づらは短い。尾はふさふさとし、足のうらにも毛がはえており、全体にずんぐりした感じである。毛色は季節によって異なる。鳥類や小獣類、魚、アザラシなどが主食であるが、夏は果実、海草なども食べる。冬に備えて獲物を地下に埋めて貯えることもある。氷点下50度の氷原でも平気で泳ぎもうまい。冬眠はしない。妊娠期間は51～57日。

● 動物公園施設案内 ●



▲ 類人猿舎

フライングケージと連結し、オランウータン、ゴリラ、チンパンジーの3種類がいる。温風ヒーターの設備があり、通路には絵やポスターなどが展示できるようになっている。



▲ サル舎

室数15で15種類のいろいろな顔のサルが見られ、当園の人気コーナーのひとつである。夜は、全部のサルがうらの寝室に入り、冬はストーブ、赤外灯で暖をとる。サルはよく食べ物をねだるしぐさをするが、柵内に入って餌など与えないでください。

表紙題字

鹿児島市長 赤崎義則

ひらかわ No25 昭和61年12月15日発行 第25号
発行所 (財)鹿児島市動物公園協会
〒891-01 鹿児島市平川町5669-1 ☎0992(61)2326-8
発行者 鹿児島市動物公園協会理事長 赤崎義則
編集者 鹿児島市平川動物公園長 宮園靖夫

撮影：梶原純一・酒匂 猛